

たまも

梁, 丹
九州大学大学院人文科学府 : 博士後期課程

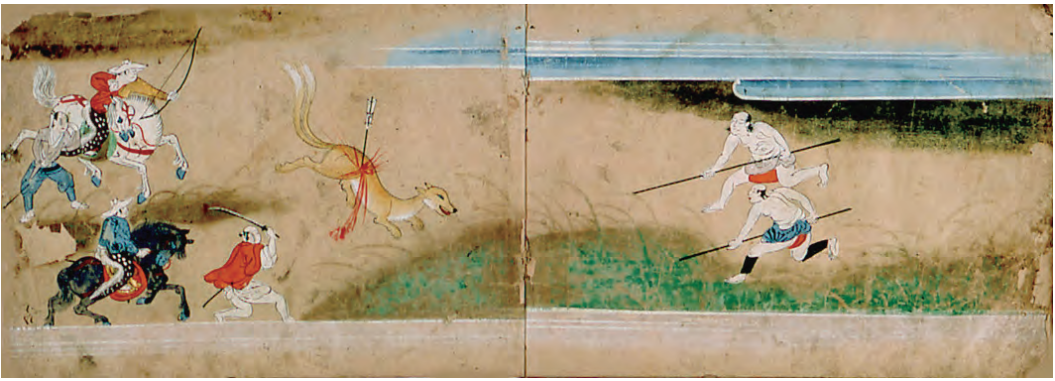
<https://doi.org/10.15017/1518325>

出版情報 : 文献探究. 52, pp.1-, 2014-03-31. 文献探究の会
バージョン :
権利関係 :

『たまも』 (九州大学附属図書館蔵 奈良絵本)



ゆしむいむらうてららのき
角くゆんせろまうりうま
いゆわしあうしひのゆり
をつせできつりてらん
じりりてあてあせお
ゆわいかにうれく乃ん
らあまうあまうひ
もつゆんときまあひ
いからんとあちひせん
ともいしあまのさ
とてあちひせん
んあちひせん
しりあちひせん
いあちひせん
つさしあちひせん



解説

梁丹

九州大学附属図書館では、平成六年五月十一日の開学記念日（八十四周年）の行事の一環として、「奈良絵本」をテーマとした貴重文物展観を開催したことがある¹。その折の展観目録は、「大学広報」No.八三二（一九九五年四月）にも掲載されており、室町時代末期から江戸時代にかけて製作された絵入本、絵巻計十六点（『竹とり物語』『曾我物語』等を含む絵本十一点と、『うつほ物語』『源氏物語歌絵』等を含む絵巻五点）が展示されたのであるが、その一つに『たまも』が含まれる。現在、これらの多くは、本学の附属図書館の画像データベースにおいて、活字本との対応頁検索機能付きで公開されている。また、その内の一部については、既に田村隆氏により、本誌の《口絵・解説》において紹介がなされている²。

本号の口絵として掲出する九州大学附属図書館に蔵される『たまも』（以下、九大本と略す）は、近世中期写の、横本二冊からなる奈良絵本である。詳しい書誌情報や『玉藻の草紙』の諸伝本との関連等については、本号掲載の「九州大学附属図書館蔵『たまも』解題と翻刻（上）」を参照されたい。

九大本の挿絵は、上巻七図、下巻七図の計十四図からなる。掲出した三図は、上段が「才色兼備の玉藻の前が知恵を披露し、鳥羽院や殿上人達を圧倒する場面」（上、五丁裏）、中段が「泰山府君の祭礼で玉藻の前が盛装して幣取を務める場面」（下、十丁裏〜十一丁表）、下段が「正体を現し、狐に化けた玉藻の前を見事に射止める場面」（下、十九丁裏〜二十丁表）である。

九大本と本文に近いと思われる一本に、国会図書館蔵『玉もの前』（以下、国会本と略す）があるが、国会本の挿絵は、上巻九図、下巻五図である。国会本にも九大本の掲出口絵に該当する挿絵は見られるが、玉藻の前の女房装束を始め、両者の構図は大きく異なり、絵師の個性が強く反映されている。また、両本を比較すると、全体的には九大本の方が豪華本で「祝儀本」としての性格が強い。尚、『玉藻の前』の諸本の挿絵に関する詳しい考察は、川島朋子氏「『玉藻前』諸本の挿絵をめぐる諸問題」（『奈良絵本絵巻の研究』第三号、二〇〇五年九月）を参照されたい。

〈注〉

1 詳細な情報は、九州大学附属図書館ホームページよりアクセスされたい。

〔第三十六回「貴重文物展観」〕「奈良絵本」(二〇一四年二月現在 https://www.lib.kyushu-u.ac.jp/hp_db/tenkan36.htm)

2 田村隆①「『口絵・解説』源氏物語歌絵」（『文献探究』第四十四号、二〇〇六年三月）、同②「『口絵・解説』うつほ物語絵巻」（『文献探究』第四十五号、二〇〇七年三月）、同③「『口絵・解説』奈良絵本」（『文献探究』第四十九号、二〇一二年三月）

（りょう たん・本学大学院博士後期課程）